

「サービック第一事業所」**「検修業務直轄化に関する問題について」**団体交渉

「当社がコメントする立場にない」

サービックの不誠実で無責任極まいない回答

4月11日、J R 東海労新幹線関西地本は、サービックと発第17号（新大阪第一事業所での検修業務直轄化に関する問題について）に基づく団体交渉を開催しました。

第一事業所に入庫した新幹線車両の車内で、車内清掃整備作業を担当しているサービック社員と、車内設備（蛍光灯、トイレ、洗面台など）の検修作業（乗務員から申告された不具合を修理）を担当しているJ R 東海社員が競合作業を行っています。

2022年3月、検修業務は委託されていたサービックからJ R 東海に直轄化されました。

J R 東海に直轄化されて以降、検修作業を担当するJ R 東海社員との競合作業において弊害が生じています。清掃整備作業は、時間的に余裕がない（1両分実質9分で仕上げる）なかで、検修作業との競合作業による弊害が生じています。

地本は、J R 東海とサービックに対して、第一事業所の検修業務直轄化に関する問題について申し入れを行いました。今回は、サービックと団体交渉を開催しましたが、サービックの回答は「当社がコメントする立場ではない」と不誠実で無責任なものでした。

*問題点(要約)

- ①検修作業の着手が遅いため、清掃整備作業に着手出来ない。
- ②検修作業終了の連絡がない時があり、清掃整備作業に着手出来ない。
- ③トイレ等の不具合状態を清掃整備作業者に問い合わせる時がある。J R 検修作業担当者が責任を持って判断すること。
- ④蛍光灯等の不具合を修理しない時は、速やかに清掃整備作業員に連絡すること。
- ⑤J R 検修作業担当者が、作業終了後に側引戸（ドア）から出るときがあり挟まれる危険がある。所定（運転室ドア）の箇所から出ること。

地本は、団体交渉の冒頭に、サービックの「当社がコメントする立場にない」という不誠実で無責任な回答に対して、「現場で発生している問題を把握しての回答なのか。不誠実で無責任な回答だ。冒頭抗議する。」と抗議しました。

団体交渉では、サービックは「現場の意見は認識しているが、我々はJ R に対して何とも言いようがない」と不誠実で無責任な対応に終始しました。

地本は「検修業務を直轄化してから弊害が出ている。直轄化される前は、清掃整備作業者と検修作業担当者とのコミュニケーションもとれて問題はなかった。検修作業をサービックに委託すること」を要求しました。しかし、サービックの回答は「業務委託についてコメントする立場にないが、ご意見として承る」と不誠実なものでした。